

第2回

海洋観光・

海を身近に懇談会

～東京の離島の玄関口「竹芝棧橋」～





『東海汽船(株)の概要及ぶ離島の船旅の魅力』

東海汽船株式会社 旅客部長

山川 哲矢

※コメント動画は、Facebookにて配信中！！

東海汽船(株)では、東京の竹芝を出て大島～利島～新島～式根島～神津島の航路と、同じく東京の竹芝を出て三宅島～御蔵島～八丈島への2つの航路を主軸としています。一番近い伊豆大島までは120kmで、一番離れている八丈島までは290km離れています。

伊豆七島へ就航している船舶は、生活物資とともに多くのお客様を運ぶ貨客船「さるびあ丸」、「橘丸」が就航しています。また、ジェットフォイルも3隻「セブンアイランド愛」、「セブンアイランド虹」、「セブンアイランド友」が就航しており、船のカラーリングは、イラストレーターの柳原氏に担当していただき、楽しくカラフルなペインティングになっています。また、来年の1月には、新しくジェットフォイルが就航予定で、大漁旗を掲げた船が港に帰還すると、人々が喜びと活気にあふれるということで「セブンアイランド大漁」と名付けられています。

離島についてですが、伊豆大島はジェットフォイルで1時間45分で行けて、椿祭りが全国的に有名です。利島は、野生のイルカが住みついています。新島は、サーフィンの国際大会が開催されるなどサーフィンが有名です。式根島は、小さな島ですが海中露天温泉があり家族連れに人気です。神津島は、日本花の百名山に選ばれた天上山があり、頂上からは伊豆七島が見渡せます。三宅島は、海がダイバーや釣りのお客様に人気であり、野鳥の島としても有名です。御蔵島は、断崖絶壁の島であり、厳しい環境から大自然が守られています。八丈島は、緯度が宮崎と同じなため南国ムードに溢れ、流人伝説も残っています。

島旅をアピールする取り組みとして、メディアや企業とタイアップし、伊豆七島で遊ぶ女性たちを応援する「島ガールツアー」などを実施したり、島の特産物を取り入れた「島島弁当」などを展開しています。

その他にも、夏場の期間(7～9月)に東京湾で納涼船のイベントを実施しており、1日約1,500人乗船していただき、今年は約14万人の方に乗船していただきました。船内では、浴衣のイベントも実施しているため、3割が浴衣を着て乗船していただいております。



「海洋観光の課題・方向性」

東洋大学国際地域学部 準教授

矢ヶ崎 紀子

※コメント動画は、Facebookにて配信中！！

昨年度から国土交通省総合政策局の主催で「海洋観光の振興に関する検討会」を実施しており、今年の6月に取りまとめを行いました。この検討会は、海洋国家である日本のことを多くの方に認識していただき、理解を深めていただくことを目的に、非日常空間を楽しむという観光の力を活用して海洋に対して親しむ人を増やしていくために、クルーズ、離島振興、技術的なことに詳しい方、旅行業に長けている方等の様々な方と検討を行いました。

まず、「海洋観光」の定義としては、海洋に関わる観光資源及び自然状況並びに海上交通を利用、活用する観光としているなど、大きく捉えています。

次に、「海洋観光」の魅力として、景観、乗船体験、離島、教育の場、非日常の空間としての海を楽しむといった体験といったものが重要です。

さらに、今までに海洋観光に関して取り組まれた様々な施策や、これから取り組むべきものを体系的に整理しました。「経済の活性化」と「海洋の管理」という2つのカテゴリーに分けています。

1つ目は、「経済の活性化」です。その中で、地域振興ですが、具体的には、違う地域から来て海・島の魅力を味わっていただき、何度も行き来していただき交流人口を増やして行くのですが、数だけを増やすのではなく、最終的には、雇用の創出も重要であり、さらに、地域振興を支える上でも人材育成も重要になってきます。次に、国・地域のブランド力・競争力の強化ですが、海洋観光の振興・発展に向けた取り組みを進める上で、各地域の海洋観光資源を、守り、育てると共に、情報交換を行って、お互いを高めあっていく環境を作っていくことが重要です。そうすることで、世界からも評価され、ブランドというものにまで、質を高めていけると思います。

2つ目は、「海洋の管理」です。その中で、我が国海洋の適切な管理ですが、海洋を管理する際には、観光も活用し、沿岸地域も適切な管理が必要ですし、さらに、大規模災害時には船舶をもっと活用していくことも必要になります。次に、我が国海洋の周知・啓発ですが、喫緊の課題であり、長く考えていかなければならないもので、海洋観光の体験を通じた海洋管理の必要性を認知していただき、そのためには、関係者の連携促進が重要で、連携のために機運も醸成する必要がある、さらに、海洋に関して知っていただくためにも教育も充実させていかなければなりません。

具体的な取り組みの方向性としては、7項目に分類しました。

- ① 海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ（海洋観光を季節限定ではなく、オールシーズンで楽しむ）
- ② 魅力の情報発信手法（海のイベント、ファムトリップ等を活用する）
- ③ 産業創出・振興
- ④ 離島振興
- ⑤ 我が国海洋の周知啓発
- ⑥ 海洋観光に係る人材の育成
- ⑦ 関係者の連携

これらについては、具体的施策をまとめており、どこまでできたのか確認していくこととしています。



「離島におけるブルー・ツーリズムや漁村との交流等」

一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所

第一調査研究所次長 林 浩志

※コメント動画は、Facebook にて配信中！！

ブルー・ツーリズムとは、島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実した海辺での生活体験を通じて、心と体をリフレッシュさせることを目的とした余暇活動のことです。海辺の資源を活用したマリンレジャーや漁業体験、トレッキングなどさまざまな体験メニューを来訪者自らが選択し、オリジナルのツーリズムを作り上げることが可能となっており、離島や漁村の魅力など色々な物を使っていこうということになります。

ブルー・ツーリズムは、「国民ニーズに応える余暇活動の提案」、「離島・漁村地域の活性化」、「漁業と海洋性レクリエーションの調和」の3本柱からなります。その後、時代の流れとともに「都市農山漁村交流」という動きとなり、漁村を中心としたものとして「都市漁村交流」があります。ブルー・ツーリズムもこれらに包括され、漁業や漁村の資源を活用した都市住民とのさまざまなかたちの交流をきっかけに、漁村振興を図っていくものです。

次に、離島についてですが、日本全国の離島を見てみると、やはり離島の生活を支えているのは、第1次産業で、その重要性をいかにPRして活かすのかが大事になってくると思います。

実際に離島で行っている取り組みですが、長崎県の小値賀町には、NPO法人アイランドツーリズム協会がありますが、この代表の方は自給生活を求めて大阪から移住してきた方で、協会の設立当初から参加し「自然体験活動ツアー」や民泊事業の展開を図っております。このように漁村を地域活性化の上では、閉鎖的なイメージを払拭するために、しがらみのない余所者や行動力がある若者が求められています。

また、三重県鳥羽市の答志島でも、漁業体験や自然体験を主に実施されていますが、ここでは、地域の子供たちを育てる「寝屋子制度（中学を卒業した男子を地域の世話役（寝屋親）の大人が預かって面倒を見るという風習）」が形態を変えながらも続いており、このような伝統及び文化が離島にはまだまだ残っていますので、これも離島の魅力の一つと思います。

最後にですが、離島や漁村の関係に携わっていてと思いますが、クジラ漁などは西から北へ伝わっており、また、NHKで制作された「あまちゃん」の海女さんによる漁業も西から北へ伝わっています。それぞれが独自に発達したものではありません。それぞれの漁村には、漁業とともに文化も流れ伝わっていき、その中で独自の食や祭りなどの文化が育まれてきました。

今後、海洋の民である日本人に如何にして海の面白さを伝えるかが大事だと思います。

意見交換



山川部長・矢ヶ崎委員、林委員の話、東海汽船(株)の船舶及び施設見学を踏まえての意見交換

会場：東海汽船(株) 会議室

(林委員)

本日、船内見学させていただいて、滅多に見ることができないブリッジの中にも入らせていただいて、大変興味深かったのですが、今回のような船内見学などのイベントは、随時行っているのですか。

(東海汽船(株)山崎社長)

船内は、安全を確保した上であれば、見学するのは可能ですが、ジェットフォイルについては、80kmのスピードが出ている状況の中で、狭いブリッジを見学するのは難しいと思います。しかしながら、レストラン船や大型船であれば可能かと思えます。



なお、子供が多い時は、見学会を開催することもあります。

(矢ヶ崎委員)

可能な範囲で、船の仕組みや動き方などを実際に見ることができたら、より興味を引くと思います。

(楓委員)

レストラン船の見学の前には、お客さんとして修学旅行生が乗船されていたようですが、実際に修学旅行生が乗船された場合、食事をする他に伊豆の航路や船の話などの学習プログラムは行われているのですか。

(東海汽船(株)山崎社長)

修学旅行生の場合は、テーブルマナー教室中心に行っていますが、時間があれば東京湾の夜景の話をしています。

夏の時期は子供のお客様が多いので、手旗や海洋教室のイベントを開催しています。

今後は、色々な機会に海や船のPRを今後もやっていきたいと思います。

(仁田委員)

瀬戸内海でも、修学旅行生を招いて色々なことを実施しています。夜に乗る際、以前は、街の灯りを中心に楽しんでもらっていましたが、最近では、灯台や船のライト等の海の灯りの説明や星の説明を行っています。



その他にも、ロープワークでコースターやランチョンマップ、足ふきマットなどを作るイベントを開催していますが大変喜ばれています。

(楓委員)

灯りという言葉は、優しいし、印象に残ると思います。

(田久保委員)

横浜では、あえて工場の夜景を見に行くクルーズがあります。

(東海汽船(株)山崎社長)

ディズニーランドのジャングルクルージングのように説明するガイドも大事ですが、最近ではクルーズの方でも説明する側が育ってきているため、工場地帯や軍艦巡りなどは、評判が良いと聞いております。

(田久保委員)



工場地帯は、景色として魅力が無いように思われますが、テクノスケープといって、景色の一部とされています。

数々のクルーズ客船にりましたが、クルーズ客船の魅力としては、荷物を移動しなくても、居ながらにして、観光地が向こうからやってきてくれることで、こんな便利なことはありません。

しかしながら、なぜ小さな頃から乗らないかといえは、やはり富裕層が乗る乗り物のイメージが強く、このイメージをどう改善するかが課題だと思えます。

(東海汽船(株)山崎社長)

現在、当社の航路は3割が生活、観光が7割となっていますが、観光をメインでやると、運賃が上がってしまい船のやり繰り等で難しいのですが、いずれは、アイランドホッピング的な船を作ってやれば良いと思っています。

(矢ヶ崎委員)

本日、東海汽船(株)の山川様よりお話しをいただきましたが、大島まで所要時間が1時間45分で、日帰りで行けるということを初めて知りました。こうした情報があまり伝わっていないのかと感じましたので、情報の発信は大切だと思いました。

(東海汽船(株)山崎社長)

昨年、伊豆大島の災害があった後、国や東京都等から協力いただき、伊豆大島を復興させるために、全国の旅行会社にPR活動をしました。その際に、ジェットfoilが1時間45分で行けると伝えると、多くの業者さんに知られておりませんでした。平成14年からジェットfoilが就航しているので、周知されていると思っていましたが、まだまだPR不足ということを感じました。



(矢ヶ崎委員)

お客様については、団体客も大事ですが、個人客であれば、直前の需要も取り込めますので、重要だと思います。

(東海汽船(株)山崎社長)

最近では、外人のガイドブックに式根島の海中温泉等の情報が入ってきていることもあり、個人の外人のお客様が島に旅行されるケースが増えてきています。ただ、欧米の方が多くて、中国、台湾のアジア系の方は多くありません。

(矢ヶ崎委員)



日本は世界的に、ナイトライフが貧弱と言われております。別に夜にお酒を飲んで過ごすということばかりではなく、夜に何かをして過ごすというプログラム能力が低いと言われております。本日、見学したレストラン船は、外国の方に人気が出ているのではないかと思いますがいかがですか。

(東海汽船(株)山崎社長)

当社のレストラン船は、意外と外国人のお客様は少ないです。守谷委員の東京都観光汽船はいかがですか。

(守谷委員)

当社の航路は、料金的にも、時間的にも乗りやすいとのことで、アジア、ヨーロッパ問わずに外国のお客さんが増えています。

(田久保委員)

日の出棧橋からお台場まで、「Jicoo (ジクー)」という船が運航していますがご存じでしょうか。船内がバーになっており、ライブ等のイベントをやっている、乗船料が定額で楽しめるので、外国の方がたくさんいます。

(東海汽船(株)山崎社長)

夏の時期にやっている納涼船には、外国の方が増えています。1日50~60人の外国人の方が乗られており、中には浴衣で乗船される方もいて、シチュエーションを変えることで乗船して楽しんでいただいていると感じています。

(楓委員)

最近では、沖縄の八重山を中心にして、星空を見に行くツアーや真の闇を体験して、蛍を見に行くなどの自然界を身近に感じるプログラムが増えています。外国の方も一緒に楽しんでいて、島ならではの夜の使い方を演出しています。



(東海汽船(株)山崎社長)

伊豆大島では、裏砂漠という砂漠があるので、夜にそこで寝ころび星を見ようというツアーがあります。

最近では、星空を楽しんだり、自然に身を委ねて何もしないなど、自然に接することを好む方が増えてきているように感じます。

(東海汽船(株)山崎部長)

最近では、島でもネイチャーガイドが育成されており、漁船を使った夜光虫、光るキノコの夜光茸などを見るツアーが増えています。

(なぐも委員)



私は、今までに佐渡島と長崎県の対馬の2つの島しか行っていませんが、船で海を渡るリスクを考えている方は多いと思います。そのため、海を渡ってまで行く離島の良さを情報として発信することが大事だと思います。

新潟県の粟島は、車の乗り入れができないそうなので、下船後の交通手段等の情報も必要かと感じました。

また、周りに海が無い内陸に住んでいる方の方が、海へのあこがれが強く、海のリスクをそんなに感じていないのかもしれないと思います。

その他に、新潟の奥只見湖で就航している遊覧船では、操舵室で子供船長体験等もやっていて、非常に人気があります。

先日、この懇談会が縁で、まずは自分自身が体験しなければならぬと思い、シーカヤックやサップを体験しましたが、非常に楽しくて、色々な方に面白さを知って欲しいと感じました。しかしながら、新潟でマリンレジャーを体験しようとする、情報量非常に少ないと感じましたので、やはり情報発信の大切さを痛感しました。

（東海汽船(株)山崎社長）

当社では、船のリスク（船酔い等）を下げるためにジェットフォイルを導入していますが、これによりお客様の層が変わり、女性や子供のお客様が増えました。



また、目的地である島が魅力的にならないと人が来ないと思います。我々としては、ヘビーリピーターを増やしていき、やがては観光客に島に住んでいただければ島の産業が立ち上がり、島が潤ってくると思います。

（矢ヶ崎委員）

やはり、最初に島へ向かう際のバリアが高いと思うのですが、これを超えていく方法と、リピートさせる方法というのは違う観点の仕掛けが必要になってくると思います。

（東海汽船(株)山崎社長）

離島は、360度海に囲まれており、時間のリズムも違うので、楽しさが分かると思うだけで癒されます。都会で疲れた方は、島に行けば絶対癒されると思いますが、そこに行きつくまでが問題なので、いかに島の魅力をPRするかが課題と感じています。

（なぐも委員）

私の娘が小学生の頃、佐渡島に連れて観光をしたのですが、一番楽しかったのは、島で遊んだことよりも「船」と言っておりました。船の中でも楽しませる工夫があるのもいいのかと思います。

（仁田委員）

以前は、出港の際には紙テープを使っていたが、環境の面もあって一時止めていたのですが、紙テープを回収することで最近復活させたのですが、これも船独特の楽しみだと思えます。

（海事局桜井次長）



大体の島には山がありますが、島の山であれば小さいので2～3時間程で登れるので、本土にいるよりも気軽に登れるし、島の山に登れば眺めも良いので、山と海を組み合わせるのも良い観光資源になると思います。

(東海汽船(株)山崎社長)

伊豆七島には、いずれもハイキングコースが設定されており、景色は素晴らしく海も綺麗に見ることができます。なによりも富士山みたいに何時間もかからず、短時間で気軽に登ることもできるので、確かにこれも魅力の一つと思います。

(仁田委員)

JRでは、駅からハイキングということで、駅から歩くコースを紹介されていますが、船の業界も港から海岸線を歩くようなコースなどを紹介するような企画を考えています。



(楓委員)

先程、出航の話がありましたが、小笠原丸が出港するとき島の方々が岸壁から海に飛び込んだり、漁船やボートが併走して見送るシーンは何度見ても感動します。

船を舞台にした出会いと別れのシーンは、非常に心の中に残ります。

(矢ヶ崎委員)

私も、湾内の周遊に乗った時に、印象に残ったのは出港と入港でした。目線が変わるため、景色の見え方も変わるので、凄く綺麗でした。

(星野委員)



私は、体験学習の関係で学生と神津島に行ったことがあり、1週間テントを張って、海に潜ったり、夜の星を見たり、焚き火をした経験があります。

子供の頃に船、海、島に親しんでもらうことは大事だと思いますし、仕掛けが大切だと思います。

客船だと、離島や無人島に行って帰ってくるプログラムや補助金を付けて価格を安くしたり、島での宿泊費を安くするなどの仕掛けを用意すると、学校の先生も使いやすくなると思います。

(東海汽船(株)山崎社長)

青山学院の初等部は、我々の船をチャーターし、毎年6月から8泊9日で、日本一周する体験学習を約40年続けています。

今年から「さるびあ丸」を利用していますが、以前までは、「かめりあ丸」を利用していました。かめりあ丸が引退する時には、過去に乗船されたOBの方々まで集まっていたで、引退パーティを開いていただきました。やはり、子供の頃に体験したものが印象に残っているようです。

その他の学校にもあたってみましたが、「なぜ船を使わないといけないのか」といったことで、踏み切れていません。

(楓委員)

富山県では、漁港に来てもらうために『るるぶ特別編集「とやま漁港めぐり」』

を作成されていますが、これを作ったことにより、むしろ地元の方々に喜ばれており、地元を活性化させるためには、地元の方が地元のことを知ってもらうことも大事だと思います。

(なぐも委員)

私の仕事の関係の話になりますが、観光バスでお邪魔している米農家があり、そこにバスツアー中におにぎりを出していただくようお願いしたのですが、今までは、米の販売のみをされていたので、消費者の声を聞く機会がなかったのですが、今回、直接お客様から「おいしい」と言った感想を直接聞くことができ、嬉しくてやる気が出ると言われていました。漁業の方でも、直接お客様と接し、生の声を聞くとやる気に繋がるのではないかと思います。

(海事局森重局長)

伊豆七島では、漁村の方で名物などはあるのですか。



(東海汽船(株)山崎社長)

それが、良い魚は築地へ送ってしまうので、地元の方もなかなか食べられていません。

高級ではないのですが、地元の美味しい魚があるのですが、地元の方の考え方は、そうした魚をお客さんに出すのは失礼という意識があります。しかしながら、それは逆で、それを食べたいということを伝えていまして、少しずつ地元の魚を上手く料理して食べていただくようになっています。

(林委員)



伊豆七島以外でも、日本の水産物で良いものは、全部築地へ卸されています。

同じく、地元で捕れるものは、お客さんに出すものではないという意識があり、それを変えるように伝えていきます。

(田久保委員)

伊豆諸島の名物と言えば、「御神火の焼酎」と「くさや」です。港へ行くと、くさやを作るところがあるので、そういったところを見るのも面白いと思います。

(矢ヶ崎委員)

地域の固有の生活文化というのは、今、観光の中では一番上質で、リピーターになりやすい良いものなのですが、日本人のメンタリティーとしては、過剰におもてなしをすることがあり、普段の生活を卑下しています。そこから、脱却できるかが大きなことで、勇気がいるので、外の人が徹底的に褒めまくるなどしないと難しいと思います。ナンバーワンではなく、オンリーワンが必要だと思います。

(守谷委員)

私の方からは、東海汽船さんの取り組みで、納涼船が凄いなと思いました。3ヶ月で約14万人が乗船され、その内の3割が浴衣着用となっており、かなり浴衣を着ることが定着されています。また、船に乗るために浴衣を着るだけでなく、浴衣を着れるから船に乗るという考え方も、船に乗せることだけが目的ではなく、浴衣を着れる場所を提供するなど、船に興味が無い人も乗れるようになっているところが、凄いなと思います。



秘めた案なのですが、私の方ではタキシードではどうかと思っています。タキシードは持ってはいるものの、なかなか着ていく場所が無い方がいらっしゃると思うので、そういう方に場所を提供できればと考えているところです。

(田久保委員)

浜松町駅は、通勤で使っていますが、浴衣を着ている方が非常に多いと感じています。

(東海汽船(株)山崎社長)

我々としては、船だけではなく、浜松町全体を浴衣の街にできないかと考えており、大門辺りの商店街、東京タワー等とタイアップを考えています。

また、守谷委員が言われたように、それぞれのシーンごとに提供できる場所があると思います。

(矢ヶ崎委員)

離島には、元々魅力がたくさん有り、それを見せる情報発信と伝えることができるガイドや、間に入る翻訳者の様な方が地元で育つと違ってくると思いました。

また、船に乗ることや島に行くことが一般的な普通の行動でないため、一回行ってもらった後押しをするためには、先ほど言われていた浴衣のように、船に乗る気がなかったけど、浴衣を着るために乗ったというように、誘導する方法というのは、非常に良い方法だと思いました。

第1回目を誘導し、その人たちとのコンタクトポイントを維持しながら、リピーターにうまく誘導していき、リピーターになったら、最終的には離島に住んでいただきたいのです。しかし、その途中で浮気をします。その辺りが難しいと思うので、徐々に段階を上げて導くということが必要だと思います。

また、子供の体験プログラムも充実できたらと思うし、離島の魅力は、そこにしかない島らしいものという原点も大事だと思います。

本日も非常に実りがある意見交換会となったことを御礼申し上げます。